



## 日本女子に對する希望

### 肝付兼行

地球の表面を主宰するものは水なり、而して陸はこれに與らずとは、これ碩學ミセレーの言であるが、海水は實に地球の表面の百分の七十三を浸し吾人の棲息する陸上を包んで居るのである、されば人類としても、亦國民としても、世界に雄飛せんとするには、自然の道理として、どうしてもまづ此包圍を破りて激浪怒濤の間を縦横に奔馳する元氣がなくてはならぬが、國民にこの元氣の充ちてある、國は皆振うて居るのである。即ち英國、米國、獨逸、佛蘭西、露西亞等の國々を見れば忍ら分かるべく、又國民にこの元氣のない國が概して振はぬことは即ち清韓土西葡等の諸國を見れば直

ちに分かる、均しく一國であるのに、その振不振の懸隔の著るしきこと斯くの如しとすれば、吾人はその理由を篤と考へなければならぬが、要するに何者としても、天理に順ふもの、榮え、天理に逆ふもの、衰へるといふ原則に洩れぬことで、即ち前者の盛んなる所以は、天理に順うて居る結果で後者の衰へる所以は天理に逆うて居る結果に外ならぬと思ふ。されば國土を海心に有して居る所の海國民たる姉妹諸子は抑も前者たらんと欲するか將後者たらんと欲するか、固より智者を俟たずして知るべきである。

諸子は人類としては天理に順ひ國民としては國利民福を圖るためにその義務天職を盡さねばならぬものであるが、要するに諸子が海國民として今日覺悟すべき所もまた實に國富を充實して國威を輝かすに外ならぬので、而して之を爲すには即ち海を資用して之を爲すより外に方法がないのである、然るに此事は我が海國の昔、よりの國是であ

ツたと見えて、其教は古くより既に備はつて居たやうだ、即ち我が大和男兒として日本の國民として取るべき否取らなければならぬ所の業務は吾輩の言を俟たず、夙に定まつて居つたことは種々徴すべきものがあるが、彼の毎年正月二日の夜に諸子が吉夢を獲て幸福を博せんと争ひ求めて枕に籍りる所の東京の所謂「おたから」といふ繪の如き又其最有力なるものであると思ふ。其繪は寶船に七福神の乗つて居るもので餘白には「ながきよのとをのねふりのみなめさめなみのりふねのをとりのよきかな」といふ回文の歌の記してあるものであるが、我が日本の女子を代表せらるゝ所の讀者諸子は、この「おたから」をば何と判断せらるゝでわらうか、之には實に我が海國民に對する貴き寓意の教訓が含まれて居るのである、而してその寓意の要領を自詠の歌にて示せば「たから船操つるすべにありと知れ我がくにたみのちよの榮えはといふ意味に外ならぬ。たから船とは文字の示せ

る如く貨船の事で我が國民が繁榮幸福を進めんに  
は、一にこの貨船を操縦して海外貿易を盛に行は  
ざるべからざる事を寓意したものらしい。  
然るに貿易は國族に伴ふとの、言に漏れず、之を  
海外に行はんとするには、まづ我が對手たる國々  
に國威を示すの要あり、海軍即ち武力が必要とわ  
るが、又其貨船自身にも渡賊防禦等のために、或  
程度の武装を要するや論を俟たない、而して貿易  
を營むには海陸の物産は素より勤勉貯蓄に成る所  
の資本を第一とし機敏加して老練なる所の商才と  
交際に巧みなる所の辨才と、變る氣候に堪へ得る  
所の健康と信用を博するに足るべき徳望とを兼ね  
備ふることが甚だ肝要である。さればにや寶船に  
は第一に甲を被つて艀先に立ちて三稜の矛を手に  
して居る所の毘沙門天王はいふまでもなくこれ武  
力の代表神たるべく、第二に軀幹短小にして豊面  
大耳烏巾を戴いて寶槌を把り財囊を背負うて米俵  
を膝下に踏み居る所の大黒天は、これ資本の代表

神たるべく、第三に青袍烏帽、棘鬣を腋下に挟んで竹竿を把り、算盤を備へ、大福髻を置きつゝ、計算簿記に抜目なく、海老で棘鬣を釣るはとに老練なる商才を示して居る所の惠比須三郎は、これ即ち商才の代表神たるべく、またこの惠比須の棘鬣と大黒天の米俵とは海陸物産の代表品たるべしと思ふ。第四に粉面皓齒琵琶を抱いて端坐し、優美にして艶麗なる風姿に犯すべからざる氣品を備へて辨才に長じ交際に巧みなること八方美人の趣きある所の辨才(財は誤にして才は正し)天はこれ勿論辨才の代表神たるべく、また第五に肥大便腹圓頂にして毅然たる容貌を備へ、兒囊を曳きずりつゝ子福者たることを示し、且つ身體の强健なることを表して居る所の布袋和尚は、これ言ふまでもなく健康の代表神であらうが、第六及び第七なる龍眉修願の福祿壽と童顔鶴髮の壽老人とは、これ即ち其福徳と壽徳とを以て徳望を代表する所の兩福神ならんと考へられる。

古人の寓意の果して然るや否やは知るべからざるも兎も角此教訓の如きは我が國民のために實に萬代不易の好教訓であると謂はざるを得ない、殊に之を其身其歳の吉凶禍福を占はんとする年初めの結夢の用に資するに至つては、教訓としては實に其當を得たるものであると思はれる。甚だ不遜ながら、予はかの「ながきよの」の無意味なる歌を前記の「たから船操つる」の歌に取り替へ、全國一般の家庭に於て面白く敷衍し之を國民が處世の教訓と爲し、また其種蒔手段として、初夢を結ばんと願ふ夜の前には勿論、其他四時を問はず、春夏の宵、秋冬の夜のお伽噺に之を用ゐんことは、國家の爲、予が深く希望する所である、戦後國力の充實を期するに急なるの今日、國民教育上この希望の實行よりも急なる急務は、我が海國に於て他にあるまい。故に予は教育の本は學校に在り、學校の本は家庭に在り、家庭の本は家母に在りといふ予が持論よりして、本誌の讀者諸子が國民教育

の大過渡期に遭遇したる日本女子の義務とし、天職として、また現在及び將來に於ける一家の家母として、十分此事に盡瘁せられんことを望まざるを得ない。

### 奉天蒙養院

奉天官立第一蒙養院と云ふのは即ち我國の所謂幼稚園で場所は奉天府四平街買家胡同と云ふ所にあり、前年より趙將軍の命によりて張提學使が熱心に經營して創設せしものなりと云ふ該院の職員は院董拔貢生董韶清(奉天人)と書記一名(清人)主任保母山口政子(東京市)保母前田新子(東京市)通譯(日本人)一人にして雜役者九人保母附下婢一人兒童附の女二名(何れも清人)あり目下の保、兒童は七才のもの三十一人五六才合せて三十一名計六十二名あり

院の構造は頗る廣大事務室保育室養生室應接室事務職員以下(の宿舍等備はらざるなく室内には種々の繪畫の額を掲げ庭内にはブランコ遊動圓木等の設けありて諸般の設備至らざる所なきがし如し庭内少しく狹隘に失るなきかの態あり遊戯具は一切日本へ注文し本日到達したりとて種々の教育品あり該院は近き將來に於て保母の養成をも開始するの目的にて現に志望者を募集し願書を提出し居るもの約三十名あるも間には四十内外の婦人もあり是等年齢多きものを除き三十才内外位

までとせば半數位に至るべく提學使の意見は多く師範學生より採用する筈ならん

入院者の保育料は徴收せず元來教育費は人民を煩はさず一切官費として大に教育の普及を計るは清國官憲の方針なるが如し

通院の兒童は皆婦人附添にて場内には或る區域以内には男子の入るを許さず「男保護至此止歩閉人亦一概禁入」の揭示あり保育兒たる證票木札を帯び來る間には母たる人の附き來るものあり

主任保母山口氏は東京女子師範學校出身にして東京にて八ヶ年間幼稚園に奉職し學識經驗共に高く東京女子高等師範學校主事山村氏の推薦によりて赴任せりと聞く將來の施設見るべきものあらん

張提學使の山口氏に對する待遇頗る厚く氏が本年三月赴任の際の如き廳僚四人をして停車場に出迎へしめ着後は提學使の司署一個所を擧げて其の居住に充て厚遇至らざるなかりきと山口氏は二十日前より院内に引移り來れりと通譯たる婦人は小學校にて山口氏より教育を受けたる人にて偶然此地にて邂逅し就職するに至りしは亦奇遇と云ふ可し。